

観葉植物ヘデラの害虫ゾウムシを新種として発表

Metapocyrtus (Trachycyrtus) hederaeophilus sp. nov. (Coleoptera,
Curculionidae, Entiminae), a Pest of the English Ivy Cultivated in Mie
Prefecture, Honshu, Japan

吉武 啓*・宮原慎一郎**・西野 実・鈴木 賢***

Hiraku Yoshitake, Shinichiro Miyahara, Minoru Nishino and Ken Suzuki

1 はじめに

2010年、三重県下の観葉植物栽培施設内で見慣れない害虫によるヘデラ（別名アイビーまたはセイヨウキヅタ）の食害が発生しました。この害虫は、フィリピンを中心に約220種が知られるアカアシカタゾウムシ属の1種であることは明らかになりましたが、種名までは特定されていませんでした。そこで、この害虫の正体を明らかにするために分類学的研究を行いました。

2 成果の内容

園芸植物あるいは地被植物として幅広く利用されているヘデラの害虫ゾウムシについて、国内外の研究機関に所蔵されている標本を材料に、詳細な形態観察に基づく分類学的研究を行った結果、未知の種であることが確認できたので、新種ヘデラアカアシカタゾウムシ *Metapocyrtus (Trachycyrtus) hederaeophilus* Yoshitake として命名し、発表しました（図1）。本種（図1）は、体長 5.5~7.0 mm で、体は赤褐色~暗褐色、まばらな微毛に覆われます。頭部と前胸、上翅は円形の金緑色の鱗片を装い、その鱗片は前胸と上翅で不明瞭な斑紋を形成します。オス（図1左）は体形がひさご形で、脚は長くて頑強である一方、メス（図1右）はより頑強な体形をしており、脚はより短くて細いなどの違いがあります。本種はヘデラを寄主植物とし、成虫は寄主の茎や葉を食害、幼虫は土中で根を食害して成育します（図2）。ただし、これらは栽培施設内で得られた知見であり、自然条件下でのその生態は一切不明です。三重県の一地点で発生が確認された以外、本種の分布に関する情報は一切ありません。人為的な環境下で突然発生した本種が日本在来とは考えにくいいため、外来種であろうと考えられますが、侵入経路も含め、発生に至った経緯は不明です。

今回、ヘデラの害虫ゾウムシの種名が確定するとともに、形態的特徴や生態、分布に関する情報が整理されたことにより、今後農業や植物検疫に携わる人々への情報提供のための基盤が整いました。

*農業環境インベントリーセンター **三重県桑名農政環境事務所 ***三重県農業研究所

*Natural Resources Inventory Center, **Kuwana Agricultural Administration and Environment Office, ***Mie Prefecture Agricultural Research Institute

インベントリー, 第12号, p3-4 (2014)

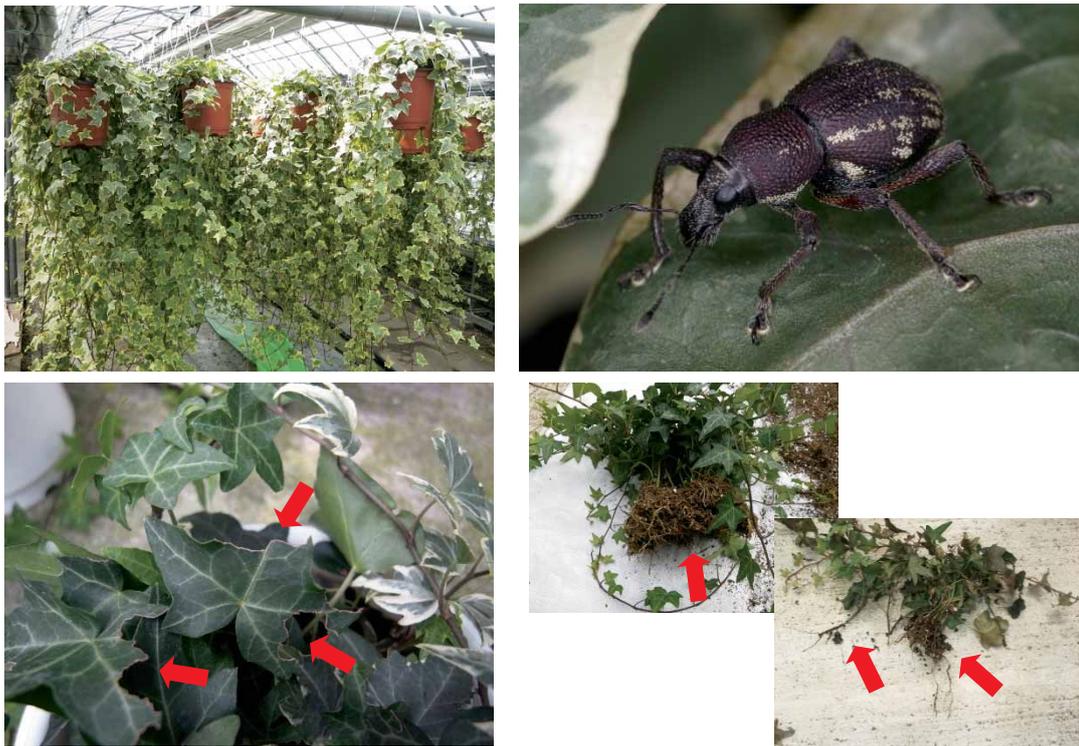
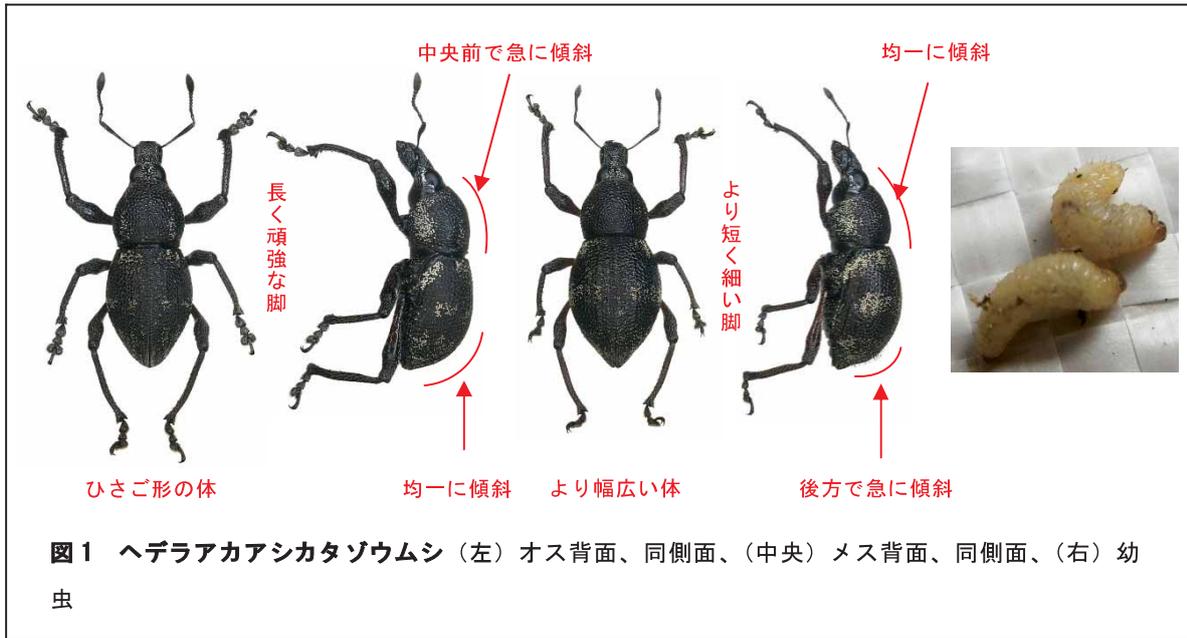


図2 ヘデラアカアシカタゾウムシの発生状況

(左上) 栽培施設内のヘデラ、(右上) 葉上の成虫、(左下) 成虫に食害された葉 (矢印)、(右下) 健全株の根と幼虫による根の食害を受けた株

問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター 吉武 啓

電話:029-838-8348, E-mail: zomushi@affrc.go.jp